

文理融合創造ゼミナール

授業科目名	文理融合創造ゼミナール	単位数 4 単位
英語標記	Creative Integration of Humanities and Sciences	
授業コード	第 1 学期 360302 第 2 学期 360218	
受講人数	25 人	
担当教員	平田オリザ、蓮行	
対象	原則として大学院生・社会人（5 名まで） ※学部 の学生は応相談	
開講時間等	集中講義 下記の土曜日、日曜日、10：30～19：30（途中休憩あり）	
開講場所	中之島センター	
キーワード	演劇、ダンス、パフォーマンスアーツ、アートマネジメント、文化政策	
授業の目的	1. 芸術そのものを、研究や仕事や生活の中に生かすための習慣づけ（discipline）を目指す。 2. パフォーマンスアーツへの参加を通じて、構想力、デザイン力を身につけ、組織や共同体に積極的に関与できる人材を育成する。 3. 芸術と社会を結びつける具体的な活動を担える人材を育成するため、アートマネジメントの基礎的で実践的な知識を身につける。	
講義内容	この講座では、実際に身体を動かすワークショップ形式の授業を織り交ぜながら、現代芸術の本質、演劇教育や芸術教育の現状と展望、公共文化施設の役割などについての理解を深めていきたいと考えています。 4/10～4/11, 10/9～10/10 1. オリエンテーション・コミュニケーションゲーム 2. 演劇ワークショップ I（現代演劇とは何か） 3. 演劇ワークショップ II（アートマネジメントについて） 5/8～5/9, 11/13～11/14 6. ワorkshop型授業とは何か？ 7. 社会における芸術の役割 8. 演劇ワークショップ III（文化政策について） 6/12～6/13, 12/11～12/12 9 演劇ワークショップ IV（グループ創作） 10. プロデューサー、コーディネーターの仕事 12. 公共文化施設の役割	
教科書	特になし。適宜資料を配布する。	
参考書	『演劇入門』（講談社現代新書）『芸術立国論』（集英社新書）平田オリザ	
成績評価	1. 芸術鑑賞の際に提出を要求されるレポート（30％） 1200 字程度 課題の鑑賞と、自由鑑賞を併せて、学期中に最低 3 回の生の舞台を観劇してもらいます。ここで提出を要求されるレポートは、作品に対する批評性を持ったものが要求されます。 2. 授業内容に関するレポート（30％） 1200 字程度 授業で学んだことを、できるかぎり自分の専門領域に引きつけて書いてください。 ※レポートは A4 版でワープロ打ちのこと。期日は授業内で発表します。 3. 出席（20％） 4. 授業への参加（20％） 積極的な発言、質問、提案などを評価します。	

この講座の三本柱

この講座は、できるだけ様々な専門分野の大学院生、社会人によって構成され、(1) 様々なパフォーマンスアーツの鑑賞、(2) ワorkshopへの参加、(3) 講座の受講 の三本柱を通じて、芸術そのものを、研究や仕事や生活の中に生かすための習慣づけ（discipline）を目指します。

この講座のねらい

まず第一の目的は、受講者個々人が、芸術を生活の中に位置づけ、豊かな発想と表現力を身につけることにあります。

次のステップとして、パフォーマンスアーツへの参加を通じて、構想力、デザイン力を身につけ、組織や共同体に積極的に関与できる人材を育成することを目指します。ディスカッションなどを通じて、企画力を養います。

さらに、芸術と社会を結びつける、具体的な活動を担える人材の育成を最終目標とします。

具体的には、

この講座が育成したいと考えている人材は、たとえば、終末医療におけるコンサートやワークショップを企画、推進できる医療関係者、芸術活動を通じてのホームレスの社会参加を総合的にコーディネートできる法曹関係者などをイメージしています。

芸術活動を通じて、よき市民であること、さらには市民社会のよきリーダーであることを目指す講座です。

講義のすすめ方は、

- ・実際の授業は、二人の担当者のスケジュールによって前後します。
- ・演劇ワークショップは 1 コマ内に、実技と座学が並行して進みます。
- ・必要に応じて、ゲスト講師を招きます。
- ・授業以外に、必修と自由選択の鑑賞機会を提供します。割引などを設定して、できるかぎり受講者の負担がないようにしたいと思います。

※この講座は、青山学院大学と共催のワークショップデザイナー養成講座の指定授業となっており、多数の社会人が受講します。あらかじめご了解ください。